

そよかぜ



佐久市社会教育委員だより 第13号
2026(令和8)年2月 発行

「そよかぜ」…このタイトルのように佐久市に 社会教育の風を吹かせ、
生涯にわたって学び続け、互いに支え合い、高め合う市民を目指していきましょう！

令和7年10月に「第67回全国社会教育研究大会岩手大会」が岩手県盛岡市で、また11月に「第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会」が神奈川県横浜市で開催されました。それぞれに佐久市社会教育委員が参加し、講演やシンポジウムで見聞を広めるとともに、他都道府県の社会教育委員と交流し、佐久市の社会教育に活かせる学びを深めてきました。

第67回全国社会教育研究大会岩手大会に参加して

先日依田さんと市の職員の方々と岩手県で開催された全国大会へ参加させていただきました。

そこにはやはり同じ課題を抱えた方、団体、市の職員などがいて色々な困り事や解決策など沢山の意見交換が出来ました。講演会においても素晴らしい講師の方がお話しくださり、初めは睡魔との戦いになるかと思っていたのですが、こんなにも早く時間が流れると思わなくらい面白かったです。

地域ごと、特色も違うし、土地柄なんかもありますが、「社会教育」に関わる方々の考え方は共通点が多くとても興味深く有意義な研修となりました。ありがとうございました。
(重田みどり委員)



10月に宮沢賢治の故郷、岩手県で開催された「全国社会教育研究大会」に参加してきました。東日本大震災から12年。復興に向けての社会教育の取り組みは、雨ニモマケズの世界観そのもので、困難への挑戦、揺るぎない信念、思いやり、そして平和への祈りが凝縮された大会でした。

講師の方が「建物はどんどん復活していくけれど、そこに大人や子どもが集うことが真の復興の景色だ」というお話に、どんなにハード面が充実してもそれが終わりではなく、そこで暮らす人と人とがより強く結びつくことが、新しい地域を創り上げていくのだらうとあらためて社会教育の大切さを感じました。

観光地を巡る時間もないので、せめて美味しいものを食べて…と岩手県を味わって来ました。今度は是非、ゆっくり観光で訪れたいと思います。(依田とく代副委員長)

社会教育のイーハトーブをめざして in 岩手

【記念講演】は、国立天文台 水沢V L B I 観測所 本間希樹氏による『岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の旅』と題した講演。

宇宙の話が社会教育につながるなんて。

研究者 本間氏からのメッセージは、「スマホやネットが発達した現代、人は受動的になりがち。未来社会の担い手に能動的な行動力を。社会教育は、意外な発見・気づきの機会を提供し続けることが大事」と。

【シンポジウム】では

- ✍ 東京国立市公民館の障がい者の居場所と学びの場づくりの取組
- ✍ 埼玉県教委と川口市の多文化共生の取組
- ✍ 「認定NPOインクルいわて」によるひとり親家庭応援とこどもの居場所づくりの取組が紹介された。

【分科会】

『学校・地域の連携・協働』に参加。

- ✍ 高校、民間、行政の協働による岩手県立大鋸高校の「高校魅力化プロジェクト」の取組
- ✍ 子ども、地域住民・団体、行政の協働による「双葉郡檜葉町と奥能登輪島市のコミュニティの復興と防災まちづくり」の取組の事例発表をもとに、意見、感想などを交流。



2日間を通して、社会教育の力はすごい♪ってことを改めて痛感。今回の大会で聞いた「社会教育は、あーでもない、こーでもない議論こそを尊重したい。」「ビジョンとパッションの共有が大事♪」という言葉。



第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会に参加して

期日は令和7年11月20日(木)・21日の1泊2日のスケジュール。私にとっては、コロナ禍以前に、定期的に通った馬車道通りを歩きながら、自然と懐かしさと新鮮さが混在しておりました。初日の全体会での出会いや、つながりがとても楽しみでした。会場に入り資料に目を通しながら、神奈川県の大大会実行委員の数の多さに少し驚いたのですが、県内の社会教育委員のOB・OGの方々が、当日運営の支援をされていること、社会教育委員は行政から任命されたからやるものではなく、任期が終わっても「社会教育委員」としての活動は可能なのではないかと、連合会長 鈴木真理氏のご挨拶文にもありました。神奈川県の人材教育や理念・文化の浸透が進んでいると感服しました。

記念講演の講師は、栗栖良依氏。2010年、33歳の時骨肉腫を発症、右下肢機能全廃。障がい福祉の世界と出会い、翌年には社会復帰NPO法人スローレーベルを立ち上げ、生き生きと自分の夢に向かいあっている素敵な女性でした。第65回横浜文化賞「文化・芸術奨励賞」受賞、TBS「ひるおび」木曜コメンテーターでもお会いできます。(大塚寛美委員)

参加報告

シンポジウム

「テーマ」すべての人が学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること

シンポジスト 青木信二氏 (厚木市立森の里公民館)

坂本陽子氏 (東京都台東区教育委員会社会教育主事)

渡邊健一氏 (相模市社会教育委員・マイノリティーサーチセンター研究員)

コーディネーター 伊藤真木子氏 (青山学院大学教授)

すべての人が学び続けられる社会とは？学び続けることが難しい状況にある人とは？社会教育の実践的な課題とは？社会教育委員としてできることはどんなことでしょうか。

今回のテーマは「社会教育として地域でできることは？」頭によぎったのが会報で読んだ、先人の長野県社会教育委員連絡協議会 小池会長の言葉「社会教育は、地域を知り、視野を広げ、気づきから行動へ、できる人ができることをやる」だったと。シンポジストの生の声や活動の様子を聴きながら、我が身を振り返り、学びなおし(リスキリング)が必要だと感じた1日目の全体会でした。

青木氏提案：共に働くとは、共同で真ん中には子どもがいる。ゆるやかなつながりを意識する。実践実践、また、実践で30年間の地域づくりも学校と共同で行う。共に楽しみ、ともに学び、共に育つ。立場はお互いに平等で、提案者であり、実践者でもある。学校の先生とツーカーでいる関係を継続しながら。

坂本氏提案：地域の課題が地域の問題として高まりが見えない。専門職の存在が欲しい。子どものリーダー育成やボランティアの人材不足。今はつなぎ役として動く街の中のキーパーソンは社会教育委員だと感じる。

渡邊氏提案：視覚障がい者の両親の下、強度弱視で生まれ、30年前から全盲になった。フロンティアスピリットで放送大学の通信教育を10年かけて社会教育を知った。バリアフリーについて調べにきた。生徒との交流から、学ぶ場はどこにでもあると実感した。学校からの依頼で、「聞いて、触って、幸せ探し講座」を行っている。一緒に考えることが大切である。点字ブロック50周年音響信号(町の中での音サインに気づく。)地域の音翻訳者になりたい。社会教育とは、つながりを学ぶこと。互いに相手の言葉や習慣を大事に受け取る姿勢が必要である。



つながる

清水由実子委員(佐久市立平根小学校長)

佐久市の社会教育委員会議では、以前より「子育て支援」と「コミュニティスクール」の二つに分かれて「居場所作り」について考えています。私は、今年度より社会教育委員会議に関わらせていただいております。この部会では、数年前より地域のコミュニティスクールの方や学校の担当者が一同に介し、情報交換を行う場を設けています。学校や地域によって、それぞれ違いはあるものの、活動に関して様々な取り組み方があるので、とても参考になっています。

今の学校は、生活科や総合的な学習の時間ができ、学校外へ出て、自分の身の回りのことや地域のことを学ぶ機会が、以前よりとても多くなりました。そして、コミュニティスクールがそれぞれの学校にでき、地域の方と協力しながら活動できることが増え、広く深く地域の学習が行えるようになってきました。学校の職員は数年で変わってしまうので、コミュニティスクールの方々の協力は、本当にありがたいです。

本校では、今年度6年生が区長さんをはじめ地域の方に御協力いただいて、地域を巡るスタンプラリーを作成し、地域をPRしようと活動しています。自分の住んでいる地域の良さや史跡・歴史を学ぶことで、自分の地域を改めて再発見し、誇りを感じることができました。学校職員も自分たちの学校の地区をまわり、児童生徒の学びに活かせるよう研修を行っていますが、地域の方との活動が充実することで、さらに広く深まりのある学習ができるのではないかと思います。



スタンプラリー台紙

子どもたちには、学校教育で得た学びをもとに、それぞれが自分の幸せを意識しつつ、多様な社会の中で、他者と共存していく持続可能な社会をつくっていきけるよう、成長していったほしいと思います。そのために、学校職員や保護者・地域の方にもコミュニティスクールの存在や活動についてもっと周知できるように、そして、学校教育が社会教育につながっていきけるよう、日々の教育活動に取り組んでいきたいと思っています。



スタンプが設置された
横根地区の諏訪神社

■ 編集後記

令和8年になりました。「居場所」づくりを継続しつつも新たなことに挑戦しようと取り組んでいます。市長さんと懇談したり子育て相談窓口の工夫やコミュニティスクールの周知を図ったりと、社会教育委員一人ひとりが、それぞれの活動を通して、よりよい社会を作る一助になっていければと思います。

【発行】佐久市社会教育委員

【事務局】〒385-8501 佐久市中込3056 佐久市役所南棟3階 佐久市教育委員会 社会教育部 生涯学習課
0267-62-0671 FAX 0267-64-6132 e-mail syogaigakusyu@city.saku.nagano.jp